

第四次長野市総合計画(素案)に係るパブリックコメントに対する検討結果

内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
1 基本構想 (序論・目 標編)	基本構想 序論 10年計画の計画・方向性は良いのですが具体的な進行と 検証を年次別に出すべきである。	今回の基本計画の特徴は、施策の体系化と行政全体の経営管理 の道具(マネジメントツール)として活用できる基本計画を 目指しており、各施策ごとに指標項目と目標を設定し、毎年度の 目標管理・予算配分などとの連動を図り、PDCAサイクルによる 施策・事業の効率化や重点化を図っていきたいと考えています。 ご指摘については、今後、3か年の具体的な取組や事業を定め る実施計画において、毎年見直しを行いながら実施事業を明らか にするとともに、平成19年度以降の取組状況について、審議会 で総合計画の進捗管理を行っていく予定です。	現状
2 基本構想 (序論・目 標編)	基本構想 序論 短期3か年計画で実施修正して欲しい。	基本構想は、平成28年度を目標とする10年間のまちづくりの基 本方針を、基本計画は、基本構想を実現するための基本的指針と して前期5年間の施策の体系や内容を定めています。ご指摘につ いては、基本計画の施策の方向に従い、3か年の具体的な取組や 事業を定める実施計画において、毎年見直しを行いながら実施事 業を明らかにしていきます。	現状
3 基本構想 (序論・目 標編)	土地利用構想 第4章土地利用構想関連の「篠ノ井地域整備方針図」で は、国道18号線、五明・西寺尾線沿い、南長野運動公園周 辺等について、市街地の無秩序な拡大防止、農業振興(田 園)地域と色塗りされている。しかし、農業では食えな い、継ぐ者はない等の現状及びしだいに寂れていく篠ノ井 地域を考えた時、どうしても南長野運動公園を中心に活性 化を図らなければならないと考える。 従って、南長野運動公園周辺、五明・西寺尾線沿いは、 広域商業、流通、工業等の複合地、幹線沿道産業複合地と する現行のままとするようお願いしたい。	土地利用構想の2土地利用の基本理念にあるとおり、土地利用 については、「開発型から保全型への土地利用の転換」として おり、身近な生活圏を中心とした拠点地域づくりと、それらが公共 交通ネットワークで結ばれ、相互機能分担する「コンパクトな まちづくり」を進めるためにも、都市計画マスタープランや農業 振興地域整備計画とも整合を図りながら、市街地の外延的拡大を 抑制し、農業の生産基盤である優良農地の維持保全を図り、秩序 ある土地利用を推進していきます。 ご指摘の箇所については、市街化を抑制する区域で、集団的な 農地であり、農地の保全を図っていくものです。	現状
4 基本構想 (序論・目 標編)	土地利用構想 土地利用構想の地域別土地利用の方向性について、長野 市中心の計画で旧篠ノ井市人口4万1千人強の人口を持つ 副都心の活性化と川中島の中心とに、市・県関連の施設を 充実・強化するよう望む。大規模の公園の必要性はないの で、長野市の南玄関口へ県機能を誘致して欲しい。	篠ノ井地区は、本市の中心市街地の一つであり、支所・市 民ホール・図書館・事業所など公益・業務等も一定の機能が集積 しています。土地利用構想や都市整備分野では、開発型から保全 型への土地利用の転換を図るとともに、歩いて暮らせる生活圏を 中心とした拠点地域づくりと相互に機能分担するコンパクトな まちづくりを目指しており、篠ノ井地区は大きな拠点の一つと して、中心市街地活性化基本計画も策定されており、生活や歴史・ 文化に根ざした拠点地域としてのまちづくりに向けた機能の集積 強化に努めていきます。	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
5	行政経営分野	<p>基本構想 行政改革の推進と効率的な行財政運営 行政改革による電算化にともない本庁職員の徹底的な大幅削減をして住民サービスをお願いしたい。（支所等は住民サービス低下になるので見合わせる。）</p>	<p>本市では、重点的に取り組む行政改革項目のひとつとして、「長野市財政構造改革プログラム」で、「総人件費の抑制」を掲げ、職員数の削減に取り組む、としており、現在「定員適正化計画」により新規採用職員数の抑制を図っています。 総合計画では、施策051-03成果を重視した行政運営で「市民ニーズに対応できる組織づくりを目指す」とし、取組として「職員の定数管理と組織の適正化・効率化」を掲げ、市民理解が得られる職員定数の管理と組織づくりを継続的に行っていきます。</p>	現状
6	行政経営分野	<p>基本施策021住民自治の推進 地方分権は住民の意識改革が必要である。住民主体は良いが協力・協調を如何にして変えて行くか（各人の生活様式の変化）が重要である。</p>	<p>都市内分権は、住民に「自分たちの地域は自分たちでつくる」という自治意識を高めていただきながら、多くの市民の協力のもとに推進したいと考えています。市としては市政出前講座や地区活動支援担当の活動等を通じ、地域住民との協働による住民自治協議会の設立を目指しています。 総合計画では、施策021-01都市内分権の推進で、「市民や地域の創造力や知恵を引き出す仕組みとして都市内分権を推進する」とし、市民が主体的に、知恵や創造力をいかしながらまちづくりに参画できるよう支援します。</p>	現状
7	行政経営分野	<p>基本施策021住民自治の推進 地区住民の方々の考え方と住民自治を進めたい行政側とのギャップを感じている。第三次総合計画では冬季五輪が一点重視の政策だったが、今回の方向は、八方美人的でポイントが絞りにくい。市民の発想の転換を求めるような施策が欲しい。 具体的には、土地区域を中心にした「組」とか「部」ではなく、道路、通りを中心の住居表示、「組」組織がまちづくり、コミュニティの基礎になるのではないかと。このような基本的な考え方を変えることが大切ではないかと。</p>	<p>総合計画は長野市の最上位計画であるとの位置付けから、全分野において総合的な基本方針や施策の体系や内容を定めています。重点施策についても、基本計画の基本施策から10本に絞込み、基本構想・基本計画を受けて今後作成する実施計画において、重点的・戦略的に取り組む具体的な事業を明らかにしていきたいと考えています。 核家族化、少子・高齢化の進展やライフスタイルの多様化により、コミュニティのあり方が変化しています。総合計画の施策021-02コミュニティ活動の支援では、「住み続けたいと思えるコミュニティの形成を目指す」とし、取組として「地域の自主的なコミュニティづくりの支援」を掲げており、既存の地縁的組織や身近な生活圏で形成された新たなコミュニティ等も含めて支援することにより、住民主体のまちづくりが進展していくよう施策を展開します。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
8	保健・福祉 分野	<p>施策111-02保育の充実 主な取組「保育サービス向上に向けた市立保育所の民営化を推進」について、市立保育所の民営化が柱となっておりと感じる。むしろ財政面を理由に民営化をするなら理解できる。民営化の本来の目的が明確ではないと感じる。</p>	<p>限られた財源や人材を効率的・効果的に活用して、多様化する保育ニーズに対応し、仕事と子育ての両立支援を推進していくためには、公立と私立の役割分担が必要であり、市立保育所すべての運営を市が直接行うことを見直し、社会福祉法人等に委託・移管し民間活力により、サービス向上を図っていききたいと考えています。 ご意見については、民営化は手段であり、保育サービスの向上が目的であるため、「保育需要に応じた保育所等の適正規模・適正配置を推進するとともに、市立保育所の民営化を進め、民間活力を活用して保育サービスの向上を図ります。」と修正します。</p>	修正
9	保健・福祉 分野	<p>基本構想 生きがいのある豊かな高齢社会の形成 施策122-02生きがいづくりの推進 60歳から75歳の年金生活者に対し、社会で熟慮した仕事の職に対し、試験や審査の結果、市長からその職のマイスターの称号を与えて、区長等の依頼でその職の仕事をボランティアで弱者等の救護に加勢することで、本人も健康で生きがいを味わう「マイスターの任命」を提案したい。</p>	<p>少子・高齢化が進展する中、「高齢者が持てる力に応じて、それぞれの経験と知識をいかしながら、地域の中で積極的に社会的役割を果たす」ことについて、福祉部会でも議論をしてきたところであり、基本施策122高齢者の社会参加の促進において掲げています。また、本施策132地域福祉社会の実現でも、「市民・事業者・NPO・行政等の連携・協働のもとに、認め合い支え合う地域福祉社会の実現」を目指しています。 今後各地区ごとに住民主体でつくる地域福祉活動計画策定への支援などを通じて、支え合いの環境づくりを推進することが必要と考えており、ご提案の「マイスターの任命」については、今後の参考とします。</p>	現状
10	保健・福祉 分野	<p>基本構想 生きがいのある豊かな高齢社会の形成 基本施策122高齢者の社会参加の促進 現在の区長は名誉職と同じで、顔の利くものになっている。職を持たない60歳から75歳くらいの健康な人から募り、役所の仕事も区に分担して、行き届いた行政や助け合い等ができる区制にし、老人にボランティアとしての働き場を与え、生きがいの場をつくるよう、「区長職の見直し」を提案したい。</p>	<p>区長の選出に当たっては、長野市区長設置規則で「行政区域内の住民から民主的な方法によって選ばれた者を委嘱する」となっており、選出方法については、各区ごとに異なっていますが、住民自治の観点から各区の主体性を尊重しているところです。 保健・福祉分野では、基本施策122高齢者の社会参加の促進で「高齢者が持てる力に応じて地域の中で積極的に社会的役割を果たす」、また、基本施策132地域福祉社会の実現で「認め合い支え合う地域福祉社会の実現」を掲げています。さらに、都市内分権の取組として、現在、市内30地区に住民主体の自治組織としての住民自治協議会の設置を促進しており、ここでは、地域の実情に合わせ柔軟に活動いただけるようにしていく予定です。この活動に当たっては、一部の地域役員に集中しがちな負担の軽減を図るため、より多くの地域住民に、できる範囲で参画いただき、小さな力を多数合わせることで大きな成果を上げることができるよう、役割分担を明確にする工夫も必要と考えています。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
11	環境分野	<p>基本施策212良好な自然環境の確保 施策233-01豊かな緑化空間の充実 このまま放置しておけば、旧市内の緑はなくなり、駐車場と化し、住環境が悪化する。現在ある樹木を登録させ、10年木、20年木、30年木それぞれに対し、100円、200円、300円と年間補助を支給するか、税より軽減する方式で緑を守る「庭木の奨励」をして欲しい。</p>	<p>生活に身近な緑化空間の充実を目指す中で、施策233-01豊かな緑化空間の充実の主な取組において「緑化の普及・啓発と緑化意識の高揚を図ります」と掲げるとともに、「ヒートアイランド現象の緩和にも役立つ市街地緑化を推進します」としています。また、事業所等についても緑化を推進するため、「工場や事業所等に緑化を義務付け、緑化を推進します」としています。 ご提案に関しては、具体的な事業を展開する上での参考とします。</p>	現状
12	防災・安全分野	<p>基本構想 災害に強いまちづくりの推進 施策232-01安全でおいしい水の安定的な供給 施策311-01防災体制の整備 災害時の水の確保に現在ある井戸水利用を提案。 災害に強いまちづくりの活動をパートナーシップに班を増設して、推進してはどうか。また、非常時の水の確保を井戸水にどれだけ頼れるか調査し、利用できるなら、ボランティア等も加えていつでも使用可能な状態に管理していくことが必要である。</p>	<p>災害時の水の確保については、施策321-01防災体制の整備の主な取組の中で、「災害時の電気・水道・ガス等のライフラインの確保体制の強化」を掲げています。 災害時における井戸水の使用につきましては、事前の水質検査で問題がない場合でも、災害の状況によっては異物が混入することが懸念されます。本市では、災害時に即応できるよう、配水池や緊急貯水槽などの水道施設の整備や、給水車など装備の充実を図り、上水道管理による水の安定的な供給体制を強化していきたいと考えておりますので、ご理解願います。 災害時に備え、水などのライフラインの確保をはじめとした防災体制の整備を、市民・行政等の協働により推進し、災害時の被害を最小限に抑制することを目指してまいります。</p>	現状
13	防災・安全分野	<p>基本施策622道路網の整備 施策321-01交通安全対策の推進 通学児童の交通安全の為に通学路には歩道をお願いしたい。また、交差点での三方向、右折、左折等がスムーズに出来る様に拡張やカーブのとり方を再考して欲しい。(公害を減らしスムーズな運行と停止時間の短縮を)</p>	<p>ご指摘の問題については、施策321-01交通安全対策の推進の主な取組の中で、「ガードレールやカーブミラーなどの交通安全施設の整備、交差点改良や歩道・自転車歩行者道等の整備など道路構造の改善」を掲げており、通学路の歩道の設置や交差点の拡張など事業実施に当たっては、財政状況を踏まえながら、危険箇所を優先的に整備していきたいと考えています。</p>	現状
14	教育・文化分野	<p>施策411-01幼児教育の充実 幼保一元化は社会の流れなのだろうが、画一的幼児教育にならないように考えておく必要がある。自然界に多様性が言われるように、人の社会にも豊かな人材を育てる必要を感じる。是非保育者にも十分な研修とゆとりある保育体制を望む。</p>	<p>幼稚園では長野市幼稚園連盟、保育所では長野市私立保育協会や長野市での研修体制を整えるとともに、各園独自の研修を行っています。また、幼保一元化の流れを受け、H18年度から、幼稚園や私立保育所に対して市立保育所で行う研修への参加を呼びかけ、合同での研修を実施しているところです。 今後は、幼稚園と保育所間の更なる連携が必要になると考えられることから、幼稚園教諭と保育士が一体となった研修を積極的に進めるとともに、本計画では、幼児期における教育の目標として掲げている「人間形成の基礎となる豊かな心と社会性の育成」を目指し、施策を展開していきたいと考えています。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への反映状況
15	教育・文化分野	<p>施策411-02小・中学校の教育内容の充実 主な取組で「学校図書館の充実を図り……」とあるが、具体性に欠けている。 具体的に「学校図書館には、文部科学省標準を満たす図書資料、メディア資料の充実を図り、資料を活かし図書館を活気付け、児童・生徒と資料(本)を結びつける学校司書の配置を促進し、児童・生徒の読書活動を推進します。」という記述にして欲しい。</p>	<p>総合計画では、多くの取組の中から主な取組を抽出し掲載しており、計画全体の表現レベルの統一を図ることから、より具体的取組に関する記述は個別の計画や取組で検討していくこととしています。 各学校では、図書購入費の配当による「学校図書館図書標準」の早期達成など、学校図書館の充実に向けた取組を進めています。また、現在策定を進めている「長野市子ども読書活動推進計画」の中でも、学校における役割や具体的取組について盛り込み、施策を展開していきます。</p>	現状
16	教育・文化分野	<p>施策411-02小・中学校の教育内容の充実 主な取組の学校図書館の充実について、何を狙っているのか具体的に見えない。図書館を充実することで学校教育が飛躍的に進展すると思う。職員問題抜きに図書館問題は考えられないので、市として正面向かって取り組んで欲しい。</p>	<p>施策411-02小・中学校の教育内容の充実では、主な取組の1つとして「学校図書館の充実を図り、児童・生徒の読書活動を推進します。」と掲げています。 各学校では、図書購入費の配当による「学校図書館図書標準」の早期達成など、学校図書館の充実に向けた取組を進めています。現在策定を進めている「長野市子ども読書活動推進計画」の中でも、学校における役割や具体的取組について盛り込み、施策を展開していきます。</p>	現状
17	教育・文化分野	<p>施策421-01生涯学習環境の整備 主な取組で、「…図書館分館の設置計画の検討を進めます。」とあるが、すでに分館設置検討委員会から分館設置基本構想が平成18年2月に教育長へ答申されている。従って、設置計画の検討ではなく、分館設置の検討を進めます。」に直して欲しい。</p>	<p>図書館分館設置については、ご指摘のとおり、平成18年2月に長野市立図書館分館設置検討委員会から、犀川以北の北部地域と犀川以南の南部地域への分館設置の必要性和併せて、他のサービス機能の充実が必要である旨の答申を受けています。 現在、具体的な計画の検討を進めていますが、ご指摘の箇所については、「図書館のサービス機能の充実を図るとともに、図書館分館の設置を検討します。」と修正します。</p>	修正
18	教育・文化分野	<p>施策421-01生涯学習環境の整備 主な取組の図書館分館の設置計画の検討について、長年図書館分館の建設が叫ばれているので、分館設置検討委員会の答申を踏まえて、是非第四次総合計画において実現して欲しい。 具体的には、図書館サービスは職員の問題であり、文化拠点づくりとともに、長期ビジョンを考えられる体制づくりと情報社会に対応するべく正規・専門職員を配置し、地域経済の活性化にも資する図書館を作るべきである。</p>	<p>図書館分館設置については、ご指摘のとおり、平成18年2月に長野市立図書館分館設置検討委員会から、犀川以北の北部地域と犀川以南の南部地域への分館設置の必要性和併せて、他のサービス機能の充実が必要である旨の答申を受けています。 施策421-01生涯学習環境の整備では「図書館のサービス機能の充実を図るとともに、図書館分館の設置を検討します。」と修正し、ご提案の内容については、具体的な計画を検討する中でいかしていきます。</p>	修正

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
19	環境分野 産業・経済分 野 都市整備分 野	<p>基本施策522中山間地域の活性化 施策232-02公共下水道等の普及促進 施策623-01情報通信基盤の整備 施策612-01ユニバーサルデザインのまちづくり</p> <p>中山間地の振興について、「中心市街地の快適性を中山間地にも公平に、早急に！」という事を痛感します。特に保科地区は様々な整備が取り残されている世帯が多く残っている。</p> <p>衛生的に重要な下水道の整備。 テレビの難視聴地域ではあるものの、今後の地上波デジタル放送も共聴設備が必要な地域で国の施策であるにも関わらず視聴者が自己負担せざるを得ない状況。加えてIN Cなど長野市を代表するケーブルテレビのサービスエリアからも外れた情報孤立地域ともいえる。</p> <p>児童、お年寄り、車椅子が安心して通る事ができる歩道の整備が進んでおらず、歩いて暮らせる、そしてユニバーサルデザインには遠く及ばない。中心市街地のみが目に見えて改良されて行き、格差が大きくなってきている。</p> <p>以上のような事柄は若者を中心に 次第に中山間地に居住するメリットに疑問を持ち、人口減少、それに伴う農業の担い手不足、農地荒廃が加速していると考え。今後、都会からの人口流入などを狙うのであれば尚更の事、上記の整備が進まないとなれば尚更荒廃は避けられないかと感じる。私自身も今回の市の計画に大きな期待をしているが、計画倒れであればやはり中心市街地に戻りたいと考える一人です。</p>	<p>中山間地域については、高齢化や人口減少による荒廃農地の増加により、防災や環境面での課題も出てきており、国土保全の面からも地域を維持していく必要があると考えています。</p> <p>総合計画では、基本施策522「中山間地域の活性化」において、生産活動の支援、農産物の加工・販売や特産品開発などの産業育成、農業体験や山村生活体験など都市農村交流、定住促進に向けた情報提供などの取組を掲げるとともに、同施策を今後の重点施策の一つに位置づけて推進することとしています。</p> <p>具体的にご指摘のうち、下水道の整備については、平成17年度末において下水道等の普及率は81.5%となっており、公共下水道や合併処理浄化槽等により全戸水洗化を目指す中で、施策232-02公共下水道の普及促進の主な取組において「公共下水道を効率的かつ計画的に整備し、処理区域の拡大を図ります」や「公共下水道及び農業集落排水区域外の地域を中心に合併処理浄化槽を普及促進します」と掲げています。</p> <p>また、情報通信基盤の整備については、日常生活の中でだれもが情報通信技術の利便性を等しく受けることができる環境を目指し、施策623-01情報通信基盤の整備の取組のなかで、高度情報化に適応した基盤整備の促進を掲げています。ケーブルテレビについては、整備計画を策定し順次、未整備地区の整備を進めていきましたが、市が事業主体として整備することは見合わせ、民間事業者の事業展開を支援していくことで、進めていきます。</p> <p>3点目の歩道の整備については、だれもが安全・安心して利用できるよう整備を進める必要があり、施策612-01ユニバーサルデザインのまちづくりにおいて、「道路交差点における歩車道段差解消や歩道幅員を確保するための既存歩道改修」、施策622-02生活道路の整備において、「歩行者と自転車交通の安全性の確保に向けた整備」を掲げ、学校施設付近の通学路を含め順次整備を進めていくこととしています。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
20	産業・経済 分野	<p>施策521-01地域農業の確立と経営基盤づくり 農業に、平坦地の大規模（4町歩）でなくても頑張っている人、個人経営の果樹・野菜の人にも直接支払いの支援をして欲しい。</p>	<p>ご指摘の内容は、米、麦等の「品目横断的経営安定対策」として国が実施する補てん制度で、認定農業者で4ha、集落営農組織等同様の組織では20haを基準として、一定規模以上の農業の担い手育成と経営安定を目的としているものです。また併せて、地域共同体が農地や農業用水等を保全する共同活動に対しても直接支払いが導入されます。 集落営農組織は、地域の個人が一定規模の組織を作り、地域全体の農業を支えていこうとするものであり、市としても、認定農業者の育成とともに、集落営農による地域農業を支える仕組みづくりと、農業公社などの支援組織を具体化していきたいと考えています。</p>	現状
21	財政推計	<p>財政推計 全体として、財政に甘い。財政の考え方は、絵に描いた餅ではない。これについて市民は縛られるし、首長は自分の都合の良いところを予算がないとか何とか言ってつまみ食いするのがおちではないか。また、長野らしさというなら泥臭く出すべきである。</p>	<p>第四次総合計画の財政推計は、平成18年2月に策定された「長野市財政構造改革プログラム」で推計されたもので、歳入の一般財源のうち、市税等については、現在の経済成長の見通しから年1%の若干の増加を見込んでいますが、一方で地方交付税は減少を見込み、全体としてはほぼ横ばいに推移するものとしています。また、歳出については、真に必要な事業の経費を確保しつつ、人件費・物件費については期間を通じ継続的に削減し、全体としては抑制するものとしており、現時点の推計としては適正と考えています。 今後の景気の動向や税制や地方交付税の制度改正を注視しつつ適時適切に財政推計の見直しを行い今後の財政運営の指標とします。 また、「首長に都合が良い予算」との指摘については、本推計では、医療・介護等の社会保障関連経費や新ごみ焼却施設建設等市民生活に不可欠な施設建設に対応するための経費を見込んでおり、「選択と集中」の考え方に基づく事業選別を行いながら、真に必要な事業に関する経費の確実な確保を目指しています。</p>	現状

第四次長野市総合計画(素案)に係るパブリックコメント(市民会議)に対する検討結果

内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
1 基本構想 (序論・目 標編)	<p>まちづくりの視点(都市経営戦略) 「1地域」の説明について、例えば、衆議院の選挙区でやるのか、参議院の選挙区でやるのか、それとも県知事の選挙区でやるのか、地域によっていろんな地域があるので、その辺を絞らなければ、あいまいで掴みようが無い。</p>	<p>例えば、コミュニティの希薄化を捉えたご近所・隣組から小字名を単位とする集まり、また、都市内分権推進における支所・連絡所など市内30地区の単位、産業経済分野での他市町村との対比による市の単位まで、地域の定義については、それぞれの分野や具体的取組内容などによって、地域像の捉え方に違いがある、という立場で使用しています。 ご提案の選挙区などを地域とし、それぞれの場面で違う言葉を定義し使用していくことは、内容によっては輻輳し関連する地域表現が難しく、簡潔に表現できなくなると考え、総合計画では、「小地域 中地域 大地域のように密接につながり、相互に関連し合うそれぞれの地域すべてを含めた概念」を「地域」と総称することとしたので、ご理解願います。</p>	現状
2 基本構想 (序論・目 標編)	<p>土地利用構想 開発から保全へと転換について、第三次総合計画にも既に書かれている内容であるが、その後、以前と同じように長野市においては、施設の郊外の流出、大型店の郊外への進出というものが続き、さらに長野市商業環境形成指針が策定された。第四次総合計画が上位計画であるならば、この基本的な主旨をぜひ守って運用していただきたい。</p>	<p>総合計画では、国・県の土地利用施策の動向や都市計画法、農業振興地域の整備に関する法律、森林法、自然公園法などの法令等を踏まえた、適正な土地利用を促進するための基本的な指針として土地利用構想を掲げています。 最上位計画である今回の総合計画は、現在策定中の都市計画マスタープランとも整合を図りながら、策定しているものであり、今後策定される各分野の個別計画についても、総合計画を補完し具体化していくものとして緊密な連携を図っていきます。</p>	現状
3 基本構想 (序論・目 標編)	<p>土地利用構想 第三次計画にあった青地白地について、五明西寺尾線の周辺は幹線の商業化ということで色が塗ってあったが、白地、要するに田園地帯になると聞いた。いったいどうなっているのか。変えることは地元の同意なくして変えられるものなのか。</p>	<p>土地利用構想の2土地利用の基本理念にありますように、土地利用については、「開発型から保全型への土地利用の転換」としており、限られた資源である土地は、現況の用途をできる限り活かし、将来に向けた長期的視点に立ち、まとまりのある優良農地の確保や、農地の有効利用を促進するとともに、周辺環境との調和と地域の特性をいかした土地利用を進めていきたいと考えています。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
4	行政経営分野	<p>施策021-01都市内分権の推進</p> <p>近年の地域の人たちの意識の変化は、良く言えば個人主義的に変化し、地域のまとまりがだんだんなくなってきている。都市内分権では、市民自らとか、行政との協働と言うが、言葉として現実離れしているように響く。地域が主体になってやっていくんだという説明だが、地域の役員をやっている人が先に立って一生懸命引っ張るという状態であり、ぜひ地域の実態に合ったご指導をいただきたい。</p>	<p>都市内分権の取組として、現在市内30地区に住民主体の自治組織としての住民自治協議会の設置を促進しており、ここでは、地域の実情に合わせ柔軟に活動いただけるようにしていく予定です。この活動に当たっては、一部の地域役員に集中しがちな負担の軽減を図るため、より多くの地域住民に、できる範囲で参画いただき、小さな力を多数合わせることで大きな成果を上げることができるよう、役割分担を明確にする工夫も必要と考えています。</p> <p>総合計画では、施策021-01都市内分権の推進の取組として「市民の自治活動の主体となる人材の発掘と育成を支援する」としており、今後も広範な市民にまちづくりに参画いただけるよう関連の施策を推進します。</p>	現状
5	行政経営分野	<p>施策021-01都市内分権の推進</p> <p>都市内分権ということでそれぞれに協議会を作れと言われているが、上手いことは書いてあるが誰がどうするのが分からない。</p>	<p>住民自治協議会は住民主体の自治組織であり、ここでは、区長会をはじめとする各種団体をネットワーク化し、それぞれが補い合って活動することで、地域の問題を解決していただくことを考えています。地域住民は、まちづくりの主体として、個人や自治会単位の活動を通じ、できる範囲で住民自治協議会の活動に参加・連携・協力いただきたいと考えています。そのためにはまちづくりに関する情報を共有していただけるような仕組みも必要と考えられ、住民自治協議会でご協議をお願いします。市においても、地区活動支援担当を配置して住民自治協議会の設立支援に向け活動しているところです。</p> <p>総合計画では、基本施策021住民自治の推進で、「市民の自主的な活動を支援することにより、住民主体のまちづくりを目指す」として、地域住民が主体的にまちづくりに関与できるよう引き続き支援します。</p>	現状
6	環境分野	<p>施策212-01身近な自然環境の保全と創造</p> <p>施策212-01の指標項目にアンケート実施予定と書かれているが、ここには何も書いてなく分からない。</p>	<p>平成18年11月にアンケートを実施しており、結果が判明していない段階でパブリックコメントを実施したため、空欄としていたものであり、答申案ではアンケート結果を踏まえ、現状値を17.3%、目標値を30%としました。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
7	環境分野	<p>施策231-01適正な廃棄物の処理の推進</p> <p>施策231-01のポイ捨て防止の問題について、自販機のごみの回収を長野市の条例として義務化する必要があると思う。</p>	<p>いわゆるポイ捨て禁止条例については、先進自治体を参考に規制の必要性の検討から始め、規制内容・罰則等を費用対効果等の視点から検討する予定があります。このため総合計画においては、施策231-01適正な廃棄物の処理の推進の主な取組において、「ポイ捨て防止など生活環境を保全する規制を検討します」と掲げています。</p>	現状
8	環境分野	<p>施策231-01適正な廃棄物の処理の推進</p> <p>商店街を散歩して歩く犬の大便や小便について、これは飼い主のマナーと言ってしまえばそれまでだが、ポイ捨ての問題とともに、環境面について、条例の整備が必要か分からないが、極めて重大な問題として捉えていただきたい。</p>		現状
9	環境分野	<p>若里公園のトイレについて、省資源と言いながら、男子トイレの水がジャージャーと流れている。あんな状態で省資源とは言えない。</p>	<p>長野県若里公園は、平成18年度から社団法人長野シルバー人材センターが指定管理者として県からの委任を受け、管理しているところです。また、このご意見は長野県の担当課へ連絡済みです。</p>	現状
10	防災・安全分野	<p>施策321-01交通安全対策の推進</p> <p>長野大通りの冬期の除雪について、自転車道は全然通れない状態である。善光寺のまちらしくしっかり歩道等の除雪をして欲しい。</p>	<p>ご指摘の冬期の除雪については、施策321-01交通安全対策の推進の主な取組の中で、「市民との協働による除雪作業の体制づくりなど、冬期の除雪対策の充実」を掲げています。</p> <p>平成17年から長野大通りなど4路線で歩道（自転車道は除く）の除雪を実施していますが、国・県の除雪計画を踏まえながら、歩道等の除雪対策の充実を図っていきます。なお、市内には多数の歩道等があることから、将来的には、学校や病院付近の重要路線を中心に対応していきたいと考えています。</p>	現状
11	防災・安全分野	<p>施策321-02防犯対策の推進</p> <p>外国人の増加や客引きの問題について、決して差別をすという意図ではないが、現実的にまちづくりや中心市街地の中でそういう存在が環境の悪化を招いているのは、事実だと思う。条例の整備が必要か分からないが、極めて重大な問題として配慮いただきたい。</p>	<p>市では、市民との協働を軸とした防犯活動を展開することにより、犯罪のない住み良いまちづくりを目指して「長野市防犯まちづくり推進条例」を制定し、平成18年4月1日から施行しました。</p> <p>総合計画においても、施策321-02防犯対策の推進の主な取組の中で、「地域住民・関係機関・地域防犯活動団体等と連携し、防犯活動を推進する」とこと、「警察署に対しパトロール活動の一層の充実を要請していく」ことを掲げており、不当な客引き行為等がないよう、警察に対し県条例に基づく取り締まり強化を要請するなど具体的に検討していきます。</p>	現状

内容区分		ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
12	教育・文化 分野	<p>施策421-01生涯学習環境の整備 図書館のサービス機能の充実と図書館分館の設置計画の検討とあるが、後半にある図書館分館の設置計画の検討について、建設ということを考えてしまうが、設置計画の検討というのはどのくらい進んでいるのか。 また、今後10年間あえて設置計画の検討と書いているのは不思議に思う。篠ノ井はいいが松代にはないので、子どもたちのことを考えたらもう少しあってほしいと思う。</p>	<p>図書館分館設置については、ご指摘のとおり、平成18年2月に長野市立図書館分館設置検討委員会から、犀川以北の北部地域と犀川以南の南部地域への分館設置の必要性和併せて、他のサービス機能の充実が必要である旨の答申を受けています。 現在、具体的な計画の検討を進めていますが、ご指摘の箇所については、「図書館のサービス機能の充実を図るとともに、図書館分館の設置を検討します。」と修正します。</p>	修正
13	教育・文化 分野	<p>施策451-01国際交流の推進 一校一国運動について、今の小・中学校の先生は非常に忙しく、係りの先生が変われば終わってしまうのは当然だと思う。最近は高齢者でも外国語を勉強している人もいるし、外国に旅行に行く人もいるので、地域に住んでいる方で一校一国運動を支援できるような形をとっていただいたら、先生だけに任せるよりは継続性があると思う。</p>	<p>施策411-02小・中学校の教育内容の充実の中の主な取組として、「一校一国運動の継承と発展など国際理解教育を推進」することを掲げています。一校一国運動は、学校が主体の事業として教員が中心となり取り組んでいます。現在も地域の方の協力を得て実施している例もあります。 ご提案の取組については、一校一国運動に限らず、「社会人講師の招聘など地域の教育力を活用した取組」や、施策421-02家庭・学校・地域の連携と交流の推進、施策421-02学習成果の活用と地域づくりへの参加の観点からも、地域の人材の発掘を図ることなどにより、今後の事業展開の中でいかしていきます。</p>	現状
14	産業・経済 分野	<p>基本構想 産業・経済分野 文化も環境整備も「元気な産業、工業があって」という感じがする。到達目標の例でも話されたが、産業振興という部分がまちづくりの中でどう表れているのか、ちょっと分かりにくいので、もう少し説明をお願いしたい。</p>	<p>産業振興は活力や賑わいを生み、雇用をはじめとする経済効果、豊かな地域づくりにつながると考えており、基本構想では、「人口減少社会を迎え都市の持続的な発展のための活力あるまちづくりが求められる中で、“ながの”の特性をいかし、オンリーワンを絶えず模索しながら、地域経済の牽引役となるいきいきとした産業振興を目指す」こととしています。 また、これを実現するため基本計画で施策や取組を掲げ、それぞれの達成度合いの目安として、観光、農業、林業、工業、商業、雇用の各分野で指標を設定しています。</p>	現状
15	産業・経済 分野	<p>施策511-01訪れてみたくなる地域づくり 提案された中身の、例えば観光客の数字は右肩上がりの数字だが、地元で見ていると右肩下がりになるような気がしている。困難な現実の中から、どのように一歩でも向上するのか、具体的に提案していただければと思う。</p>	<p>都市間競争や少子・高齢化社会の中で、今後、地域の観光資源をいかした賑わいづくりが不可欠となっており、市では年間観光客数1200万人達成に向けて、善光寺・松代・戸隠など地域ブランドのモデル地区での集中的な事業展開や、NHK大河ドラマ「風林火山」ゆかりの地の観光推進、広域観光「善光寺発信州北回廊」などの事業を開始しています。 観光以外でも、基本計画の施策に設定した159本の指標は、指標のねらいや根拠を明確にしながら設定したもので、今後達成に向けて具体的取組を進めるとともに、その達成状況等を毎年確認していく予定です。</p>	現状

内容区分		ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
16	産業・経済 分野	<p>基本施策521未来に向けた農業の再生・振興</p> <p>農業施策で土地利用の分は出ているけれども、具体的に土地利用はどのようにやるのか。農業をやる人がいなくなり、高齢化して活性化できない。活用することは誰かにやってもらえばいいが、収入がないから、例えば農業公社を創ると言っているが、食べて生活できるのか、その辺の具体的なところをお願いしたい。</p>	<p>農業では高齢化や後継者難が課題となっており、農地を適正に維持していくために地域全体で農業を支えていく仕組みづくりが急務となっている。農業公社はそのための一つの手段で、集落営農や安定経営を支えるものと考えています。</p> <p>総合計画では、基本施策521未来に向けた農業の再生・振興において、農業の経営基盤の強化や、付加価値の高い農業生産を掲げ、農業公社等の支援体制の整備、耕作放棄地の防止と解消、小麦・大豆・そばなど加工・販売と連携した特色ある産地化などに取り組むこととしています。なお、これらの取組については、現在策定中の産業振興ビジョンにおいても具体的な方針を示していきます。</p>	現状
17	産業・経済 分野	<p>基本施策531産業の集積と工業の活性化</p> <p>長野市は他市と比べ、産業や工業などがちょっと弱い感じがする。研究・開発施設など、環境に影響が無く若い人が就職できる施設がもっと多くできないか、という観点からも検討いただきたい。</p>	<p>市では平成17年に長野市ものづくり支援センターを設置し、信州大学工学部などと連携して先端産業での民間企業の研究・開発や起業、大学等の研究機関からの技術移転等を促進しています。</p> <p>総合計画では、基本施策531産業の集積と工業の活性化で、新産業の創出、特色ある産業集積、積極的な企業誘致を図るとしており、また、同施策を重点施策に位置づけて推進することとしています。</p>	現状
18	都市整備 分野	<p>基本施策622道路網の整備</p> <p>施策611-02中心市街地の再生</p> <p>現在進行形で重要な道路が動いていることは、歓迎する一方で、郊外に道路が開通するたびに商業施設が張り付く可能性があることを非常に懸念している。中心市街地の活性化といっても、周りに100倍の商店街ができれば、活性化は到底できない。</p>	<p>土地利用については、開発型から保全型への土地利用の転換を図るとともに、都市整備分野においては、今後の都市づくりの理念・目標として、歩いて暮らせる生活圏を中心とした拠点地域づくりとそれらを公共交通等で結ぶ相互に機能分担するコンパクトなまちづくりを目指していきます。まちを結ぶ快適なネットワークを形成していく上で、今後も道路網の整備を計画的・重点的に進めていくことが必要と考えており、622道路網の整備の中で「市内外を円滑に結ぶ広域幹線道路の整備」、「市街地の移動性を高める幹線道路の整備」などの取組を掲げております。</p> <p>ご指摘については、都市計画マスタープランなどとも整合を図りながら、市街地の外延的拡大の抑制や中心市街地の再生・活性化の視点から大規模集客施設の適正な立地を図っていきます。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
19	都市整備分野	<p>基本施策611コンパクトなまちづくりの推進 都市内分権や農業公社、土地の利用などの個々については、いろいろと情報が流れてくる。昔は中央通りが中心だったかもしれないが、篠ノ井地区の活性化も配慮して欲しい。</p>	<p>篠ノ井地区については、篠ノ井駅があり、JR篠ノ井線やしなの鉄道が乗り入れており、通学・通勤等の拠点となっているほか、支所、市民ホール、図書館、事業所など公益機能・業務機能は一定の集積があり、地区人口も4万人を超える規模があります。 第四次総合計画では、「コンパクトなまちづくり」を土地利用構想や都市整備の方針に掲げ、拠点地域づくりと相互の機能分担によるコンパクトなまちを目指しており、篠ノ井地区は大きな拠点の一つと考えられます。また、篠ノ井地区には中心市街地活性化基本計画も策定されており、生活や歴史・文化に根ざした拠点地域としてのまちづくりに向けて地域住民とともに活性化を目指していきます。</p>	現状
20	都市整備分野	<p>施策611-02中心市街地の再生 善光寺なくして長野市は語れない。現状では、善光寺の裏から大型バスが入り、そっとお参りをして帰ってしまう。トイゴの近くの駐車場も、もんぜんぶら座などが主体だということで、今後10年考えていくうえで非常に重要な問題だと思う。</p>	<p>都市整備分野においては、施策611-02中心市街地の再生の中で、人々が交流し、歩いて楽しめる中心市街地を目指していきます。 善光寺を訪れる人が中央通りの参道を歩く方策については、施策611-02中心市街地の再生において「来街者の受け皿となる駐車場の整備」、「中央通り歩行者優先道路化を含めた安全で快適な歩行者空間の整備」、「門前町としての特性やまちなかの緑・水路ををいかした散策・回遊できる街並みの形成」などを取組に掲げており、歴史と未来を感じる「訪れたくなるまち」を目標として、現在策定中の都市計画マスタープラン、長野地区中心市街地活性化基本計画などとの整合を図りながら検討していきます。</p>	現状
21	財政推計	<p>財政推計 財政推計で、例えば受益と負担の見直しや支出額の抑制などがあり、それは当然のことで良いと思うが、「住民主体のまちづくり」と盛んに言われているわけであり、支所単位で使えるような一定の額が支出されるのかどうか、心配である。</p>	<p>住民主体のまちづくりを進めるためには、地域のことは地域で決め実施できる仕組みを構築することが必要と考えています。総合計画では、施策021-01都市内分権の推進の取組として「地域総合事務所など、住民自治の確立に向けた新たな仕組みづくりを研究する」とし、今後「地域総合事務所」の在り方について検討する中で、予算配分を含めた仕組みも研究していきます。</p>	現状

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
22	財政推計	<p>財政推計 だいぶ甘い財政計画である。財政推計の考え方の中で「景気の持続的な回復」となっているが、現在、下降ぎみになっていると思う。長野市民の中で景気が良いと言う人はほとんどいないと思う。</p>	<p>この総合計画の財政推計は、平成18年2月に策定された「長野市財政構造改革プログラム」で推計されたもので、歳入の一般財源のうち、市税等については、現在の経済成長の見通しから年1%の若干の増加を見込んでいるが、一方で地方交付税は減少を見込み、全体としてはほぼ横ばいに推移するものとしています。また、歳出については、真に必要な事業の経費を確保しつつ、人件費・物件費については期間を通じ継続的に削減し、全体としては抑制するものとしており、現時点の推計としては適正と考えています。今後の景気の動向、税制や地方交付税の制度改正を注視しつつ適時適切に財政推計の見直しを行い今後の財政運営の指標としていきます。</p>	現状
23	財政推計	<p>財政推計 財政推計について、裏側にあるものを知りたい。平成13年度は歳入超過、平成14・15年度はトントンにきている。平成16年度は合併の影響もあり歳出超過というのは仕方ないが、その後平成25年度頃まで歳出と歳入の差がついているのはなぜなのか。見方によっては合併の面倒をみているようにも見えるけれどもどうなのか説明をお願いしたい。</p>	<p>ご指摘の期間について、歳入についてはほぼ横ばいに推移するものと推計する一方、歳出については、この期間継続して医療・介護等、社会保障関連経費の増加が見込まれる上に、平成21年から22年については、新ごみ焼却施設建設等の大型プロジェクトに対応するための経費を見込み歳出総額が増加し、この間は収支不足が継続するという内容となっています。</p>	現状
24	その他	<p>P D C Aのサイクルをまわすような策定にしていきたいと思います。重点主義といっても不明確であり、計画倒れにならないように、計画の時点から「これは実行できる」、「できない」の配慮をもう少し絞り込んで、はっきりした策定計画案にしていきたいと思います。</p>	<p>総合計画は長野市の最上位計画であるとの位置付けから、全分野において総合的な基本方針や施策の体系や内容を定めています。重点施策についても、基本計画の基本施策から10本に絞込み、基本構想・基本計画を受けて今後作成する実施計画において、重点的・戦略的に取り組む具体的な事業を明らかにしていきたいと考えています。 今回の基本計画については、今後、毎年度の目標管理・予算配分などと連動を図り、P D C Aサイクルによる施策・事業の効率化や重点化に努めていきます。</p>	現状
25	その他	<p>年号を見て分かりづらいので、西暦で統一された方が良く、見やすいかと思う。年号について整理した方がよいと思う。</p>	<p>平成、昭和の年号表記を基本とするが、オリンピック開催年や期間表示などについては、必要に応じて括弧書きで西暦表示を補足することとします。</p>	修正

	内容区分	ご意見・ご提案の内容	検討結果	計画案への 反映状況
26	その他	<p>施策があり目標があり指標があるが、指標が良くなれば、施策目標は達成できるのかと、指標を見ると本当にこれでいいかと思うものも中には感じられる。</p>	<p>今回の基本計画の特徴は、施策の体系化と行政全体の経営管理の道具（マネジメントツール）として活用できる基本計画を目指しており、毎年度の目標管理・予算配分などとの連動を図り、PDCAサイクルによる施策・事業の効率化や重点化を図っていきたいと考えています。すべての施策において、取組による結果・成果を指標に設定していくことが望ましいが、行政が把握している統計数値の多くは、個々の事業の活動内容を示す数値であり、その中で目標達成の目安として代表的な取組の指標を掲げているものです。</p> <p>今後、平成19年度以降の取組状況について、審議会で総合計画の進捗管理を行っていく予定です。</p>	現状
27	その他	<p>目標を目指してやっていく場合になぜ現状がそうなっているのか、現状分析が必要だと思う。現状がどうなのか、現状はなぜ起こっているのかということ踏まえて、どのように目指すのかをもう少し教えていただきたい。</p>	<p>今回の計画策定に際しては、総合計画審議会の下部組織として、審議会委員と市民公募による総勢60名、6分野にわたる作業部会を設置し、協働による策定を目指してきたところです。当初から「10年後の長野市の姿」、「市民まちづくり懇談会」などの市民意見聴取、市各課から提出された現況と課題、また、作業部会でのワークショップを通しての現状分析から策定作業を始め、まとめました。</p> <p>今回の総合計画(素案)の概要版では、基本計画の現況と課題の部分は省略されていますが、本編では、簡潔に文章化し、その現況と課題に対して、どのような施策、取組を展開していくのかを掲げていますので、ご覧いただきたい。</p>	現状